

ハートフル

～きこえる いっしょに^{かんが}えよう～

三木市子どもいじめ防止センター

平成27年 7月発行

6号



いちがっきもそろそろ終わりに近づき、もうすぐ夏休み
ですね。1学期の間に、新たな出会いはありましたか？



今回のテーマは「友だち」です。

自分に友だちが少ないのは、どうしてなんだろう。そんなこと
で悩んでいませんか。友だちが少ないとか、友だちが多いという
のは人によって、それぞれ、個人差があります。

あなたに友だちが少ないからといって、悲しんだり、友だちが
たくさんいる人を羨ましいと思うことがあ
るかもしれません。でも、そんな風に思う
必要はありません。

こんな風に友だちと接してみたら、と
思う事を挙げてみます。

くわしくは次のページへ



三木市
子どもいじめ防止センター

Tel 82-8110

相談日：月曜日～土曜日

時間：午前9時～午後5時まで

日曜日・祝日はお休みです。

住所：〒673-0433 三木市福井 1933-12

三木市立教育センター3階

ありのまま 受け入れられる

友だちのこんなところが良くて、思ったりせず友だちをありのまま受け入れられるといいですね。

好きになれる

一緒に話をしたり、遊んだりする事が、好きになれたらいいですね。

自分から行動する

連絡や返事がこないなあ・と待つのではなく、自分から、連絡をするチャンスだと思って勇気をもって行動しましょう。きっと相手も応えてくれます。

ありがとうの言葉

「ありがとう」その一言がうれしかったりします。人は感謝されると嬉しくなります。友だちだから、当たり前だと思わないで「ありがとう」の感謝の言葉を忘れないように・・・。



こんな風に人と接していくことは、人と人との関係でとても大切なことです。それは、おとなになっても同じです。

友だちが頑張ってるのをみれば、私も頑張ろうと思う。友だちにつらいことがあれば、支えたいし、私が泣きたいときは胸を貸してもらいたいと思う。楽しいときは、おもいきり一緒に笑いたいと思う。

そんな友だちが1人でもいれば最高ですね。



おとなのみなさんへ

子どもってすごい！って思うことありませんか？『子どもってすごい！』そんな風を感じたメッセージを紹介します。



子どもたちからおとなへのメッセージ

「まず、おとなが幸せにいてください。おとなが幸せじゃないのに子どもだけ幸せにはなれません。……中略…… “子どもは愛情と理解をもって育まれる”とありますが、まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。子どもはそういう中で、安心して生きることができます。」

(川崎市子どもの権利条例子ども委員会のまとめ)より

このメッセージを読んだ時、大きなため息をついた私に、まだ小さかった子どもが「おかあさん、ため息ひとつついたら幸せがひとつ逃げていくねんで」と言ったことを思い出しました。

「弁護士によるいじめ防止出前授業」を実施

子どもいじめ防止センターでは、今年も「弁護士によるいじめ防止出前授業」を中学校で実施しています。

6月17日には、自由が丘中学校で4人の弁護士さんに、1年生のそれぞれのクラスで授業をしていただきました。この授業の中で「自分を大事にできないと、他人を大事にできません。だから、友だちの良いところと同じくらい自分の良いところもみつけましょう」「普通って何？一人ひとり違うから相手をよく見ましょう」と「友だち」についてのお話もありました。

出前授業は、これから他校でも実施していきます。



子どもいじめ防止センター職員による

『いじめから子どもを守ろう！ 出前 mini 講座』

いじめの防止・早期発見のため、地域の皆さんや保護者の方々を対象とした30分程度の講座を開催しております。くわしくは、子どもいじめ防止センターまでお問い合わせください。

だれに話をはなしてきいてもらいたいと思ったら・・・



「きいて今日こんなことがあった！！」「大人に伝えたいけど・・・自信がない」「子どもの様子が気になる」「これぐらいの事で相談したら・・・」そんな悩みや不安があるときは、気軽に子どもいじめ防止センターに相談してください。人に話すことで、スッキリすることもあります。秘密は必ず守ります。



Tel 82-8110
月～土(9時から17時)

本のしょうかい



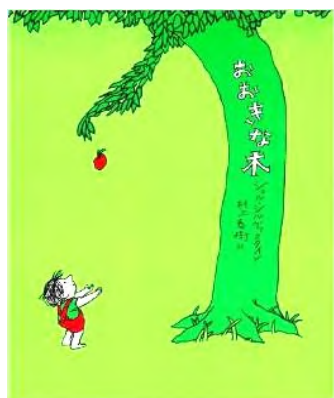
The Giving Tree

作者 シェル・シルヴァスタイン



おおきな木

訳 ほんだきんいちろう



おおきな木

訳 村上春樹

「おおきな木」 (THE GIVING TREE)

〈あらすじ〉

リンゴの木と少年は友だちであった。ともに遊び、心を通わせていた。しかし少年は大人になってゆきお金が必要になる。木は「私の果実を売rinaさい」と言う。少年は果実をすべて持っていった。やがて、少年は大人になり家が become 必要になる。木は「私の枝で家を建てなさい」と言う。男は枝をすべて持っていった。また時が経ち、男は「悲しいので遠くへ行きたい」と言う。木は「私の幹で舟を作りなさい」と言う。男は幹を持っていった。時が経ち、男は年老いて帰ってきた。そして「疲れたので休む場所がほしい」と言う。木は「切り株の私に腰をかけなさい」と言う。男は腰をかけた。木は幸せであった。

〈よみどころ〉



原作はアメリカ人のシェル・シルヴァスタイン

という作者が書いた絵本です。簡単な単語を繰り返し使うことで、あるリズム感を感じつつも、何故か最後は深く心に残る1本のリンゴの木と少年のお話。その原作を翻訳者である、ほんだきんいちろう(本田錦一郎)さんと村上春樹さんがそれぞれの感性で訳されています。幼少期に読まれた経験のある方は、再び読み返してみると、以前の感じ方とは違ったりします。又、お二人が翻訳した本を読み、どちらが自分の感性に深く感じるものがあるか、読み比べてみるのもいいかもしれません。

熱中症に 注意!



熱中症・・急に暑くなった日や、活動の初日は特に注意・・
人間の体は暑い環境での運動や作業を始めてから3~4日経たないと、体温調節が上手になっていきません。急に暑くなった日や、活動の初日は特に注意し、スポーツドリンクなどで水分をこまめに摂り、休憩を取りながら過ごしましょう。